

えひめの歴史文化モノ語り

県歴博収蔵資料から ⑫

今回紹介する資料は、一う／吐く「動作で音が違つ見ると旧家などに残つて ように、ハーモニカ箏筒もいそがな普通の箏筒(たんす)である。しかし、ただの箏筒でないことは、引き出しを開け閉めするとわかる。「ファ〜」という音が鳴るのだ。その音色は、ハーモニカに近い。そのため「ハーモニカ箏筒」の名前が付けられている。

引き出しの奥にハーモニカの吹き口のような部分があり、空気が出入りすると音が鳴る仕組みになっている。ハーモニカは「息を吸

開閉で鳴る音 防犯目的

ではないが、空気がもれないしっかりとしたつくりでないといけない。愛媛で特徴的な箏筒というわけでもなく、大正時代頃に嫁入り道具として各地で人気があったように、和歌山県立紀伊風土記の丘にも収蔵されている。

本資料も、大正時代頃の嫁入り道具であったようだが、詳細は不明。扉の内側に残されていた銘により、製作は松山市内で現在も営業する家具店(当時は箏筒店)であることがわかる。娘の嫁入りに地元の家具店に発注して製作され、大事に使い込まれてきた。

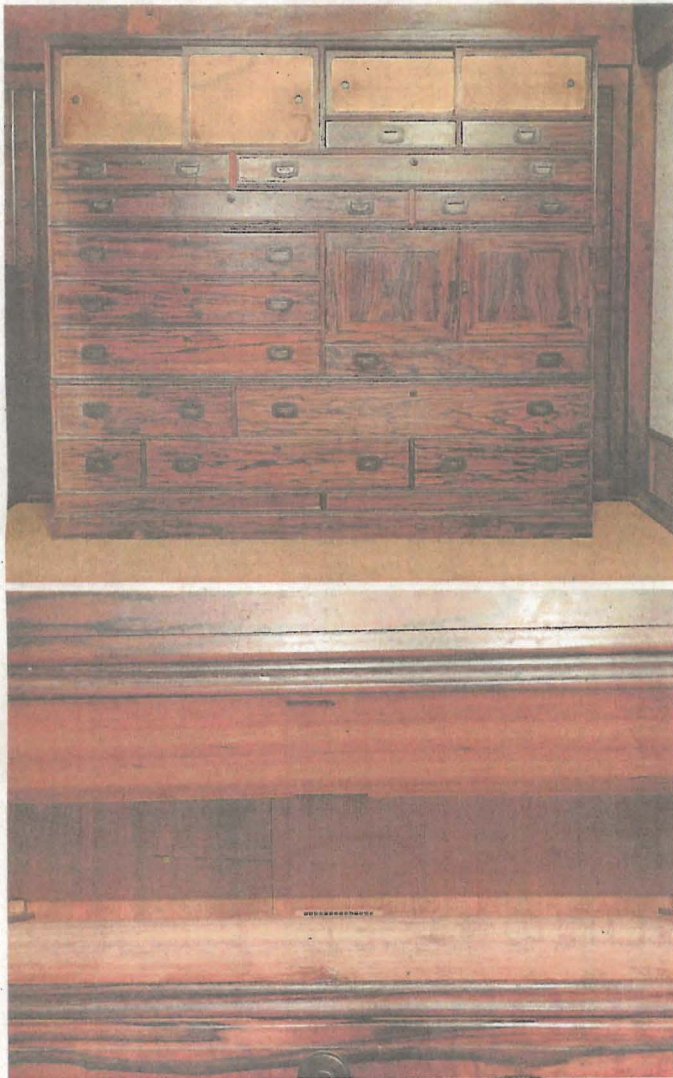
本資料のように幅が一間(約1.8m)ある大型の箏筒を「間箏筒」(けんだんす)と呼ぶが、現在の主流は四尺箏筒(約1.2m)である。日常着が和服から洋服に変わったことに加え、マンションやアパートの増加などライフスタイルの変化で、箏筒も次第に小さくなっていった。

資料の面白さを伝えるには、文字だけでは限界がある。とりわけ今回のような資料は、実際にさわったり、体験したりすることで、面白さが倍増する。ハーモニカ箏筒は現在、民俗展示室2の復元家屋「山のおいえ」に展示しており、小学校などの団体を対象とした「昔のくらし」のプログラムに申し込めば体験が可能である。機会があればぜひその音色をお楽しみいただきたい。

(専門学芸員・松井寿)

〈随時掲載します〉

ハーモニカ箏筒



ハーモニカ箏筒(上)。大正時代頃。県歴史文化博物館蔵。下は引き出しを取り外した写真。内部にハーモニカのような器具が埋め込まれている。